



## 「花と庄原」の可能性を見つける

庄原ガーデンセミナー・2/11

No.4

庄原自治振興センターで、花と緑のまちづくり協議会主催の庄原ガーデンセミナーが開催され、市内外から約110人が参加しました。

このセミナーは、世界的ガーデナーで庄原市ふるさと大使の石原和幸さんを講師に迎え、講演会形式で行われました。当日は、石原さんと本市の関わりを時系列で振り返った後、参加者との質疑応答を通じて、会場は活発な交流に包まれました。

セミナーの最後には、即興でブーケを作るパフォーマンスを披露し、5人にブーケをプレゼント。

参加者は「庄原の可能性を楽しく考えることが出来た」とうれしそうに話しました。



▲ブーケをプレゼントされた参加者



▲ステージ上で講演を行う石原さん



▲参加者と石原さんの記念撮影

## 庄原ブランド米が全国で高評価

受賞者が八谷市長を表敬訪問・3/2

No.6

世界最大の米コンクール「第27回米・食味分析鑑定コンクール国際大会 in つくばみらい」が茨城県で開催され、「都道府県・海外地域代表 お米選手権」部門で「協同組合庄原里山の夢ファーム」の深屋進さん(本郷町)が出品した「ゆうたい21」が特別優秀賞を受賞しました。

また、北広島町で開催された日本一美味しいお米コンテスト「第4回全日本お米グランプリ in 北広島町」では庄原市ブランド米推進協議会 農事組合法人殿垣内(殿垣内町)の「あきさかり」が銀賞を受賞し、受賞報告として、関係者の皆さんが八谷市長を表敬訪問しました。

本市には、特色ある栽培方法で育てられた多くの「庄原ブランド米」があり、今回の受賞で、本市が高品質でおいしい米の産地であることが全国にPRされました。



▲表敬訪問を行った皆さんと八谷市長

## まちの魅力を地域へ発信

比和地域の支えあいづくりの集い・3/12

No.5

比和自治振興センターで、「比和まるごと家族『比和地域の支えあいづくりの集い』」が行われ、約90人が来場しました。

当日は、比和の自然や歴史・文化などに目を向けた郷土学習を進める中で、比和小や比和中の児童生徒が見つけた比和の魅力を地域へ発表しました。また、庄原ファンクラブに参加した大学生や広島大学大学院の皆さんによる地域活性化アイデアの発表や、共同作業所ゆめのいえと就労支援せせらぎによる雑貨販売があり、大いににぎわいました。

参加者は「住んでいる人には見慣れた景色でも、外の人たちには魅力となるものがたくさんある。双方の視点を合わせて、地域活性化につなげたい」と話しました。



▲比和小5・6年生の発表

## まちの見どころを紹介！

「総領をもっと盛り上げ隊」ウォークラリーイベント・3/4

節分草祭・3/8

No.1

道の駅リストア・ステーション付近で、総領小児童がウォークラリーイベントを開催しました。

これは、道の駅を訪れた人々に総領町の魅力を知ってもらいたいと児童が自分たちで考えたイベントです。

児童たちは、参加者と節分草自生地などを歩いて回り、町に関するクイズを出題したり、児童が作成した町内のおすすめスポットの動画を紹介したりしました。

また、道中には、節分草や福寿草、道端には水仙などが咲いており、春の訪れを感じながらの散策となりました。

児童は「取材をしてみて、笑顔の大切さがわかった。笑顔で話をすると相手も笑顔になって話がしやすくなるので、町を笑顔で盛り上げていきたい」と話しました。



▲ウォークラリーを行う児童と参加者



▲来場者でにぎわう会場

▲セツブンソウ

## 口和のこれからを考えよう

第13回くちわのつどい・3/14

No.3

これからの口和を考える「くちわのつどい」が口和自治振興センターで開催され、約150人が参加しました。

当日は、口和自治振興区による活動の歩みや「口和の集まり場」の取り組みについての紹介が行われた後、口和中の生徒が授業の一環で地域貢献を目的に設立した仮想会社について発表し、若い世代の視点から地域の将来への思いを語りました。

また、座談会「地域医療を考える」では、口和地域の医師、地域マネージャー、口和支所長が対談し、人口減少が進む中での地域医療の現状や在宅医療の必要性、地域のつながりの大切さについて意見を交わしました。

参加者は「地域のつながりの大切さや地域医療の今後について改めて考える機会となった」と話しました。



▲座談会「地域医療を考える」

## あの頃の決意との再会

西城小学校創立150周年記念事業・2/22

No.2

西城小学校の創立150周年記念事業で、タイムカプセルの採掘が行われ、約90人が集まりました。

このタイムカプセルは、創立100周年の際に、当時の子どもたちが「50年後に元気で集まろう、みんなで集まってカプセルを開こう」と約束し、校庭に埋設したものです。

当日は、校舎前にある百周年記念碑前でタイムカプセルの採掘が行われ、カプセルに収められていた当時の作文や作品の披露、返却が行われました。参加者は当時の思い出や、懐かしい母校で再会できた喜びを、当時の児童だった仲間や地域の皆さんと共に分かち合いました。

同校の中田弘幸校長は「次は現在の児童が50年後を見据え、今後の未来をより良く、また、力強く生きてくれるものと信じています」と話しました。



▲思い出の作文や図画などを懐かしむ参加者